

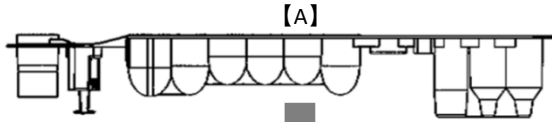
XX-X-XX

自動処理_FFPE 組織切片サンプルからのゲノム DNA 分離

プロトコル

FFPE 組織ブロックから組織切片*1を数枚作製し、2mL マイクロチューブ*2にいれる

試薬ストリップを取り出し、ウェル【A】の位置に EDT を 40 μ L 添加*3する



脱パラフィン試薬(DDF) を 5 滴(約 300 μ L) サンプルに添加

ボルテックス(最大回転数): 15 秒

スピンドウン*4

装置にセット

Protocol: DNA FFPE
(溶出液量 : 100 μ L*5)

*サンプルチューブのセット方法については、

Quick Start Guide または取扱説明書を参照してください。

1. 270 μ L の MDF(EDF 入り)を添加
2. ピペッティングにより攪拌
3. インキュベーション(65°C、30 分)
4. インキュベーション(90°C、45 分)
5. サンプル下層を移液後、230 μ L の LDF と混合
6. ピペッティングにより攪拌
7. 240 μ L のエタノール(>99%)と混合
8. ピペッティングにより攪拌(ライセート完成)
9. ライセートをカートリッジにアプライ
10. 加圧
11. Wash Buffer(WDF)で 3 回洗浄
12. 溶出液(CDF)を添加し、ゲノム DNA をコレクションチューブに回収

ゲノム DNA

*1
5 μ m 厚の場合 : 1~10 枚、
10 μ m 厚の場合 : 1~5 枚ま
で使用可能です。また、表
面積は 250 mm^2 まで使用可
能です。

*2
推奨のマイクロチューブ
#BM4020 (ビーエム機器)
#72.695.700(SARSTEDT)
#72.695.500S(SARSTEDT)

*3
マイクロピペッターを使用
し、チップ先端でアルミ包
装を破って充填してくださ
い。

*4
12,000 rpm 以上で遠心して
ください。

*5
推奨溶出量は 100 μ L です。

サンプルの種類・保存条件などによっては分離できない場合があります。
データに関しては保証しておりません。
分離した核酸には目的以外の核酸(例: DNA 分離には RNA)が含まれています。

結果

マウス胎仔 18.5d FFPE 組織切片(10 μ m 厚 3 枚)から QuickGene-Auto12S を使用してゲノム DNA を分離しました。

ゲノム DNA の収量(Qubit 測定)

サンプル		#1	#2	#3
収量 (μ g)	QuickGene	16.7	13.8	13.0
	A 社キット	11.8	11.2	8.0

タンパク質の混入：A260/280

サンプル		#1	#2	#3
A260/280	QuickGene	1.97	1.98	1.98
	A 社キット	2.01	2.02	2.01

共通プロトコルサンプル

サンプルの種類・保存条件などによっては分離できない場合があります。
データに関しては保証しておりません。
分離した核酸には目的以外の核酸（例：DNA 分離には RNA）が含まれています。